

しるだより

平成29年度第1号
夏休み特集号

発行
平成29年7月19日
徳島市北沖洲1丁目15の60
徳島市立高等学校
進学課・就職課

「人生の構想」を描け

学校長 天 羽 博 昭

いよいよ3年後には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。皆さんはその時、何をしているか想像できますか。

『2050年の世界～英エコノミスト誌は予想する～』（著者：英「エコノミスト」誌編集部）という本の中で、「人間とその相互関係」、「経済とビジネス」、「環境・信仰・政府」や「知識と科学」などについての未来予想が書かれています。

それによると、まず世界経済において、今後最も重要な地位を占めるのはアジア経済で、世界経済の半分を占めると予想しています。しかし、日本は急速にプレゼンスを失って、2010年に世界経済の5.8%を占めていた日本のGDPは、2030年には3.4%、2050年には1.9%にまで低下すると予想されています。そして、「格差」については、世界的な規模での各国間の貧富の差が現在より縮小すると言われる一方で、先進国を中心に国内における格差は拡大するであろうと言われています。高度経済成長時代、「一億総中流社会」と言われた日本ですが、現在は格差社会に突入しつつあるのです。そして、個々の経済格差の要因としては、どこに住んでいるかよりどのような教育を受けるかの方がはるかに大きいと予測しています。オリンピック後の日本は、グローバル化がさらに進み、より価値観が多様化し、社会が複雑化すると考えられます。この成熟社会をどのように持続していくのか、山積した課題解決の道のりを歩むことになるかもしれません。

そこで、これからの日本の未来を担う皆さんは、こうした激動の社会の中を生きていくために、「二つの力」を身につける必要があります。

まず一つ目は、これから起こるであろう様々な想定外のこと（経済恐慌、天災、パンデミック等）に対し、動じず生き抜く力をつけることです。日本の教育もこれまでの学力観を根本から再構築し、「大学教育改革」、「高校教育改革」、さらには「大学入学改革」の三位一体改革を実施し、大きく変わろうとしています。日本国内の企業に目を向けてみても、インターネットの普及や人工知能などの技術革新によって、これまでのビジネスが陳腐化し、それ

に固執していた企業は淘汰され、新しい企業が次々と生まれています。日本のプロ野球球団を持つ企業の名前だけ見ても、そうした流れが見て取れます。社会の流れに漂流（ドリフト）しないように、自分の目的やゴールに向かう羅針盤をしっかりと持つ必要があります。

二つ目は、グローバル・リテラシー（国際対話能力）を身につけることです。多角的な国際協調の面で「英語」は世界の共通語であり続けると予想されます。英語が使えなければグローバル化のステージに上がることすらできなくなるのではないかと危惧しています。資源をもたない日本にとって、「世界へアクセスする能力」を備えて、活躍の場を求めなければ国内経済は疲弊してしまうでしょう。そのため、「異文化理解と英語でのコミュニケーション能力」の必要性が益々高まっています。

大学進学を希望する皆さんに伝えたいことは、大学入学とはあくまで通過点であるということです。人生のゴールや目的に向かう途中駅が大学なのです。「入れる大学」で良しとせず、自分が今勉強しているのは何のためなのか再確認し、グローバル社会の中で生きていくため、貪欲に学ぶ意志を持って欲しいと思います。また、学校だけが学びの場ではありません。皆さんの知的好奇心に火をつけてくれるような、本物や一流との出会いの機会を見つけることも大切です。本校の『みらい共創室』は、そうした出会いをコーディネートするために設置したものです。発信される情報を活用し、積極的に参加して欲しいと思います。そして、一度しかない人生をどうしたいのかという問いに対する答え（少なくとも方向感覚と価値観を見失わない羅針盤を持つこと）をつかむようにしてください。

夏休みは主体的な学びができる絶好のチャンスです。人生の構想図を描き、「未来の扉」を開けるために、意欲的に計画を立て、挑戦してください。市高の恵まれた環境を生かして自分磨きをしましょう。市高教職員は皆さんのやる気を全力でサポートします。

2017年夏～なりたい自分になるために～

夏休みは40日間です。みなさんは、この夏をどのように過ごすと考えていますか？高校生にとってこの夏の重要な課題のひとつは、進路を考えることとその進路実現のための方法を見つけることです。特に1、2年生はオープンキャンパスへの参加や三者面談を通して、進路を具体的にイメージすることが求められます。自分が行動して得た情報は、今後の糧になり、進路実現のモチベーションにつながります。是非とも大学や各種の体験学習に足を運んで下さい。一方、3年生は進路についてこれまでに十分考え、検討してきたはずですが、進路を決断するのは自分であり、他人ではありません。自分の決断したことに自信を持ち、前に進んで下さい。しかし、それでも迷うのが進路決定なのかもしれません。そんな時は、担任の先生や友人、保護者の人と話してみして下さい。話をすることで不安は和らぎますし、周囲の人も同じ悩みを経験していることが分かると思いますよ。

ここでは、進路実現に向けての具体的な学習の進め方について伝えます。最も大切なことは時間をいかに有効に使うかです。そのためにみなさんに常に伝えてきたことは、「計画の重要性」です。これまで、「学習計画・記録」を活用して計画を立てる練習をしてきました。その中で、計画は欲張って立ててしまう傾向があることを経験したのではないのでしょうか？休日にはあれもこれもできると思っていないでしたか？計画は自分ができると思う7割程度で抑えるのが丁度良いのかもしれません。そこで、夏休みの40日間のうち、どれだけの時間が自由になるのかを考えてみましょう。オープンキャンパス、登校日、補習、部活動、市高祭準備など決まっている行事の時間、食事・睡眠時間などを数え上

げてみると、意外にも自由な時間は少ないものです。なんとなく時間があると考えることのないように気をつけましょう。

では、具体的に計画の立て方を記してみます。

- ① 40日間で大きく6週に分けること
- ② 各週毎の小目標を立てること
例えば、「数学問題集で平面ベクトルの発展問題を解けるようにする」とか、「これまで受験した模擬試験の英語で文法問題を完璧に理解して解けるようにする」など。そして、その小目標を達成するために、「1冊の問題集を2回は繰り返す」など具体的な勉強方法まで考えておくことが大切です。1・2年生は夏休み後に行われる第2回実力テストの範囲を参考に目標設定するのがよいと思います。
- ③ 計画は少しずつ修正すること
小目標がクリアできていないなど、計画通りに進行していない場合は、完璧を求めすぎずに修正することを恐れなくてください。
- ④ 学習においてはアウトプットを意識すること
学習の効果を高めるためにはアウトプット、つまりテスト形式で問題に取り組むことを意識して下さい。これをやらなければ、なかなか自分の弱点を発見できません。

以上のように計画を立てて、小目標を一つずつクリアして、確実にこれだけはやれたというものを残して下さい。40日後のみ皆さんの中にある確かな変化を感じるため、充実した夏を過ごすことを期待しています。（宮城真人）